

ASHBi 科研費申請支援セミナー

研究を正しく伝える調書作り

— 理解しやすい「**図**」と「**文章**」で作る —



京都大学高等研究院 ヒト生物学高等研究拠点 (WPI-ASHBi)

科研費調書の例

体制、また業務の種類とフローまでを対象として汎化可能なシステムの理論構築を目指す。

様式S-14 研究計画調書（添付ファイル項目）

基盤研究（C）（一般）1

1 研究目的、研究方法など

本研究計画調書は「小区分」の審査区分で審査されます。記述に当たっては、「科学研究費助成事業における審査及び評価に関する規程」（公募要綱111頁参照）を参考にしてください。

本欄には、本研究の目的と方法などについて、3頁以内で記述してください。

冒頭にその概要を簡潔にまとめて記述し、本文には、(1)本研究の学術的背景、研究課題の核心をなす学術的「問い」、(2)本研究の目的および学術的独自性と創造性、(3)本研究で何をどのように、どこまで明らかにしようとするのか、について具体的かつ明確に記述してください。

本研究を研究分担者とともに行う場合は、研究代表者、研究分担者の具体的な役割を記述してください。

【概要】 ※10行程度で記述してください。

本研究の目的は、大学の特性・状況に合わせたリサーチ・アドミニストレーション(URA)システムを明らかにすることである。大学の特性と効果的な研究支援内容との因果関係を解明し、様々な大学にカスタマイズして導入できる汎用的かつ効果的なURAシステムの構築を行う。具体的には、①URAシステム導入で先行する6大学の研究推進・支援体制、研究状況の把握し、②リサーチ・アドミニストレーションに係る効果的な要因を特定する。これらを通して、③日本版リサーチ・アドミニストレーションシステム(URAシステム)の体系化を実施する。これらを通して個々の大学の特徴に則したURAシステムの実施体制と業務フローに関して汎化可能なシステムの理論構築を目指す。これらの成果によって各大学が最適なURAシステムの導入が可能となり、日本の大学の研究力向上に貢献する。

【本文】

【1】本研究の学術的背景、研究課題の核心をなす学術的「問い」

【本研究の学術的背景】

近年、日本の大学において、研究者を複雑な業務から開放し、研究に専念できるようリサーチ・ア

ドミニストレーション体制の体系化を実現するとともに、URA定着化ことで学術的黎明期であるURA学の深化に貢献する。果敢な導入と普及と定着が実現することで日本の研究であると考えている。

かにしようとするのか

の研究

支援体

る効果

遍要素

と関係を

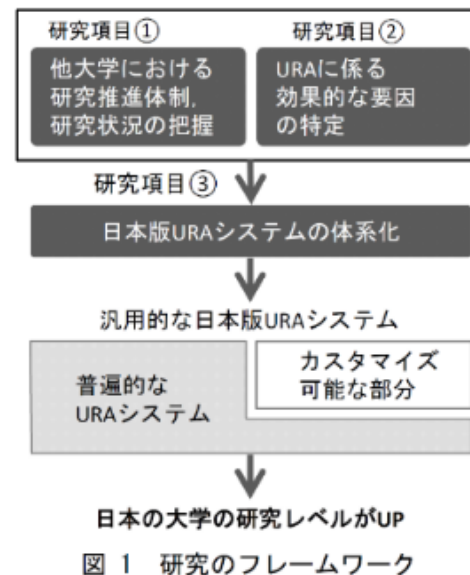


図1 研究のフレームワーク

KURA 科研費申請書の教科書 version3 より抜粋

調書は「図」と「文章」で構成されている

目的 = 審査員が理解しやすい調書を作る

調書のグラフィックデザイン
学内外で招待講演 **12** 件

ナビゲート



ヒト生物学高等研究拠点
URA
信田 誠

昨年度の科研費申請支援
若手研究で **14/14** 採択

図



情報環境機構
特定講師
小野 英理

文章



学術研究支援室
シニアURA
古谷 真優美

本セミナーの構成

第1部

科研費
審査員の
視点

ヒト生物学高等研究拠点
URA
信田 誠

第2部

研究計画調書の
グラフィック
デザイン

情報環境機構
特定講師
小野 英理

第3部

科研費
研究計画調書
書き方の
ポイント

学術研究支援室
シニアURA
古谷 真優美

理解してもらおう相手 = 審査員

① 誰が？

② どんな状況で？

③ 何を判断？

理解してもらう相手 = 審査員

① 誰が？ → 選択した小区分の研究者4名*

*科研費若手研究・基盤研究Cの場合

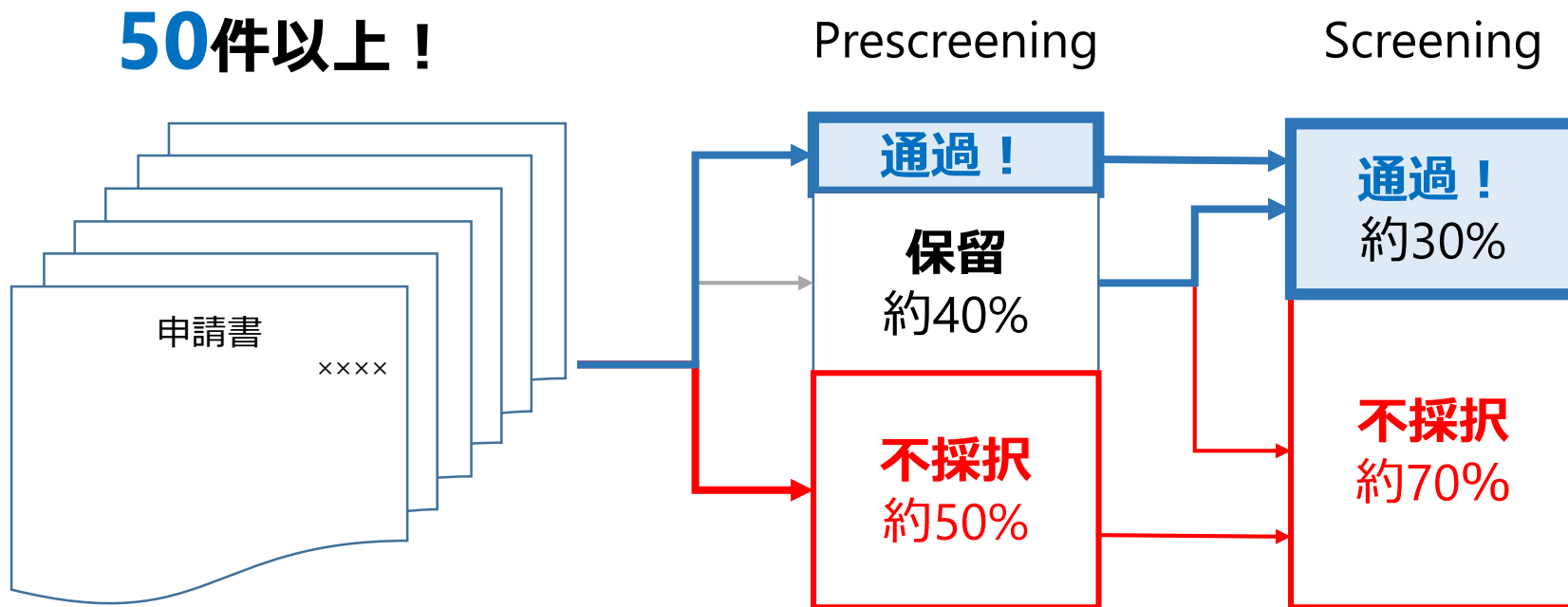
小区分	内容の例
44020 発生生物学 関連	細胞分化、幹細胞、再生、胚葉形成、形態形成、 器官形成、受精、生殖細胞、遺伝子発現調節、 発生遺伝、進化発生、など

専門外でも理解できる文章と適切な小区分

理解してもらおう相手 = 審査員

② どんな状況で？ → 年末年始の短期間で50件以上を審査

ある審査員の例



理解してもらおう相手 = 審査員

② どんな状況で？ → 年末年始の短期間で50件以上を審査

Form S-13: Research Proposal Document (forms to be uploaded)

Scientific Research (B) (General) 1

1. Research Objectives, Research Method, etc.

This research proposal will be reviewed in the Basic Section of the applicant's choice. In filling this application form, refer to the Application Procedures for Grants-in-Aid for Scientific Research -KAKENHI-.

In this column, research objectives, research method, etc. should be described within 3 pages. A succinct summary of the research proposal should be given at the beginning.

The main text should give descriptions, in concrete and clear terms, of (1) scientific background for the proposed research, and the "key scientific question" comprising the core of the research plan, (2) the purpose, scientific significance, and originality of the research project, and (3) what will be elucidated, and to what extent and how will it be pursued during the research period.

If the proposed research project involves Co-Investigator(s), a concrete description of the role-sharing between the Principal Investigator and the Co-Investigator(s) should be given.

[SUMMARY] *Describe in about 10 lines

Summary

[MAIN TEXT]

Heading

Scientific Research (B) (General) 2

[1. Research Objectives, Research Method, etc. (continued from the previous page)]

Subheading

Subheading

Subheading

Figure

研究ストーリーを明快な構造にする

Ogawa T. "My experience as a reviewer" KAKENHI Preparation in Advance, 2018/07/11 より

素早く全体像を掴める工夫

理解してもらう相手 = 審査員

③ 何を判断？



個別要素3項目 から 総合評価

- ・ 研究の学術的重要性・妥当性
- ・ 目的、方法の妥当性
- ・ 研究遂行能力、研究環境の適切性

基盤研究 (C) (一般) 1

1 研究目的、研究方法など

本研究計画書は「小区分」の審査区分で審査されます。記述に当たっては、「科学研究費助成事業における審査及び評価に関する規程」(公募要領109頁参照)を参考にすること。
本欄には、本研究の目的と方法などについて、3頁以内で記述すること。
冒頭はその概要を簡潔にまとめて記述し、本文には、(1)本研究の学術的背景、研究課題の核心をなす学術的「問い」、(2)本研究の目的および学術的独自性と創造性、(3)本研究で何をどのように、どこまで明らかにしようとするのか、について具体的かつ明確に記述すること。
本研究を研究分担者と

基盤研究 (C) (一般) 5

3 応募者の研究遂行能力及び研究環境

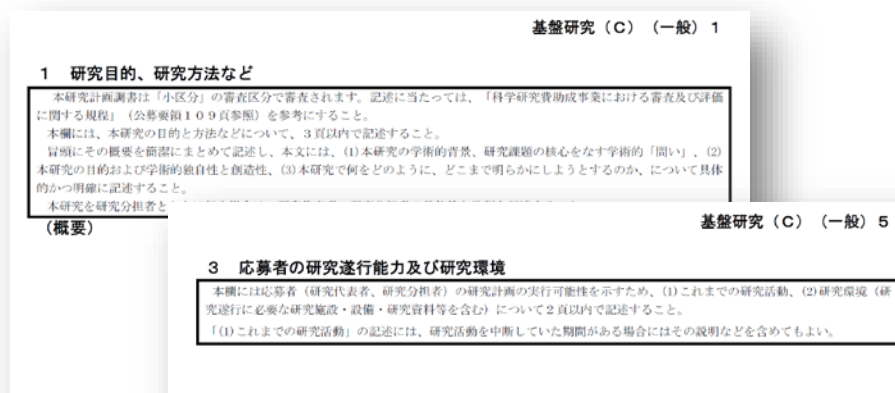
本欄には応募者(研究代表者、研究分担者)の研究計画の実行可能性を示すため、(1)これまでの研究活動、(2)研究環境(研究遂行に必要な研究施設・設備・研究資料等を含む)について2頁以内で記述すること。
「(1)これまでの研究活動」の記述には、研究活動を中断していた期間がある場合にはその説明などを含めてもよい。

申請書で要求される項目

- ・ 学術的背景、**核心をなす学術的「問い」**
- ・ 研究の目的、学術的独自性・創造性
- ・ これまでの研究活動、研究環境

理解してもらう相手 = 審査員

③ 何を判断？



個別要素3項目

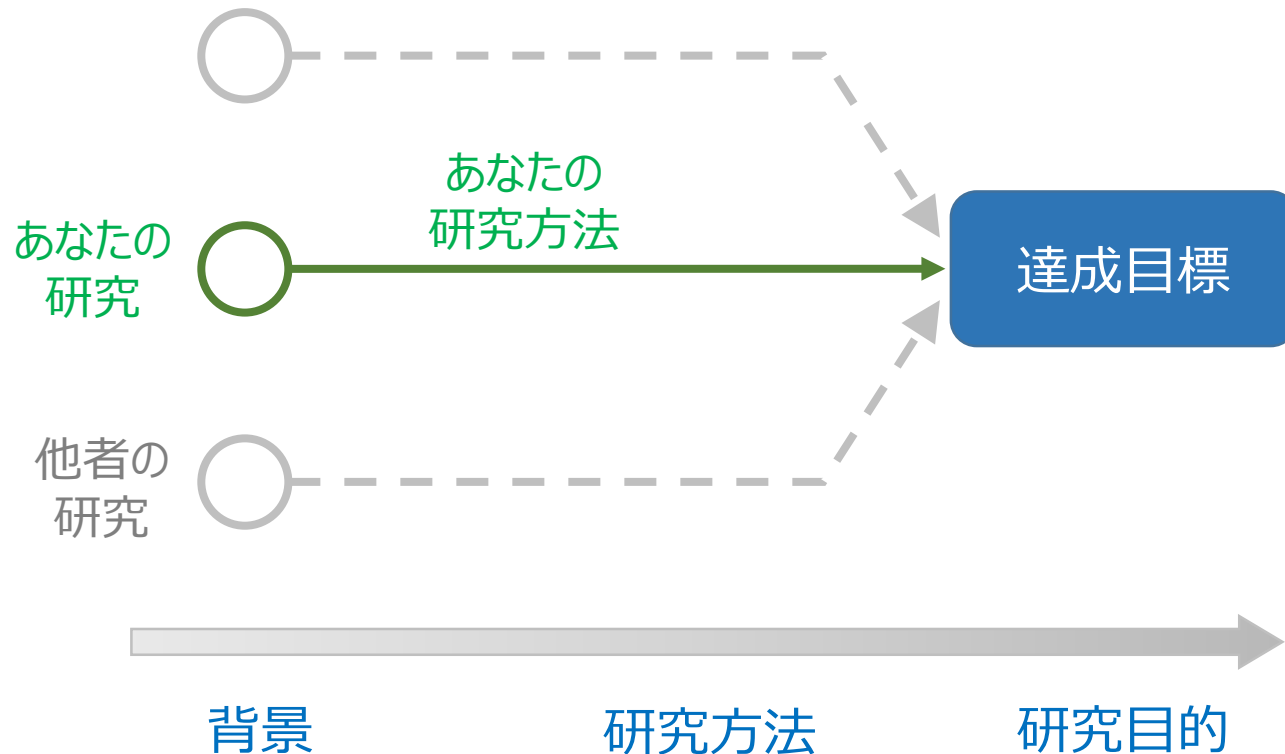
- 研究の学術的
- 目的、方法の妥当性
- 研究遂行能力

学術的意義
特に **核心をなす学術的「問い」**

計画の実行可能性
計画期間内（最大5年間）で達成可能？

る項目
学術的「問い」
研究の目的 学術的独自性・創造性
研究環境

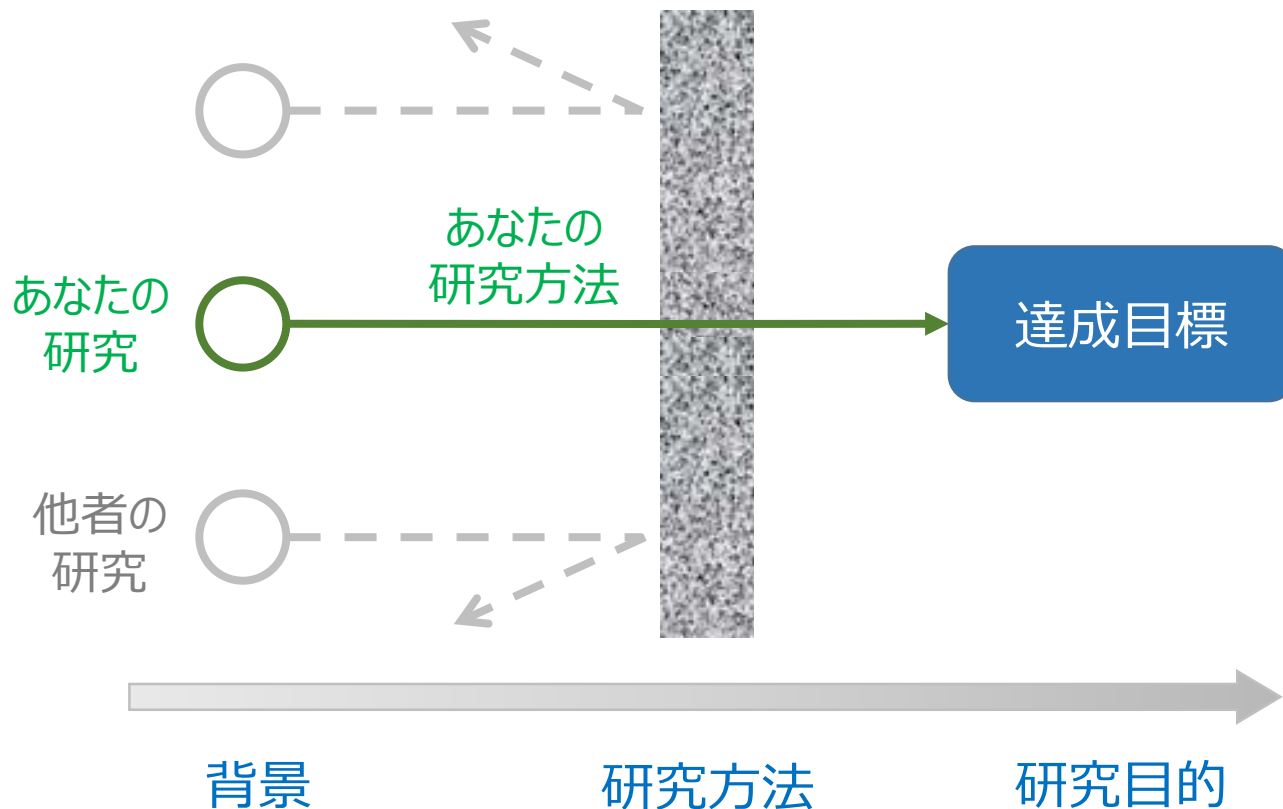
学術的意義（核心をなす学術的「問い」）



Ogawa T. "My experience as a reviewer" KAKENHI Preparation in Advance, 2018/07/11 より改変

他人も達成できる = 独創性を評価できない

学術的意義（核心をなす学術的「問い」）



Ogawa T. "My experience as a reviewer" KAKENHI Preparation in Advance, 2018/07/11 より改変

自分だけが突破できる「壁」を見つける

↑ 核心をなす学術的「問い」

計画の実行可能性

研究に直接関係する業績

論文、表彰、特許など

予備実験データ

Unpublished含む

研究インフラ・体制

施設、装置、相談・連携相手

審査員が納得できる証拠を積み上げる

審査員が理解しやすい調書作成のポイント

誰が？

選択した小区分の研究者4名
⇒専門外でも理解できる言葉

どんな状況で？

年末年始の短期間で50件以上を審査
⇒素早く全体像を掴める工夫

何を判断？

個別要素3項目を元に総合評価
⇒学術的意義、計画の実行可能性



理解しやすい「図」 & 理解しやすい「文章」

理解しやすい「図」 & 理解しやすい「文章」

第2部

研究計画調書の

グラフィックデザイン



情報環境機構
特定講師
小野 英理

第3部

科研費研究計画調書

書き方のポイント



学術研究支援室
シニアURA
古谷 真優美

最後に：WPI-ASHBiからのご案内

WPI-ASHBiでは、
研究支援のための各種セミナーを
今後も随時開催します。

詳細はASHBiのウェブサイトに掲示します。
ぜひ今後もお参加ください！

ASHBiに関する情報はコチラ

